

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

公表

事業所名

てらびあぽけっと清澄白河教室

公表日

2025 年 11 月 20 日

利用児童数

2025 年 10 月 1 日

回収数 42

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	38	3		1		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	38	2		2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	38	1		3		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	38	3		1	レッスンを見学したことがないのでわからない。	保護者が安心してお子さまの様子を把握できるよう、見学や活動報告の機会を設け、教室内の環境や支援の様子を共有する体制を整える。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36	6			・以前よりSTに見てもらう機会が多くなった。印象に残った内容を自宅で振り返り、家族に同じことをしてほしいと要求してくれることがあり嬉しいです。 ・先生方がとても優しく対応してくださっています。	専門職との連携を継続し、本児の特性や課題に応じた支援内容を職員間で共有する。家庭での実践につながるフィードバックを行い、園や家庭との連携を強化しながら一貫した支援体制を維持する。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	39	2		1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	39	2		1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	37	3		2		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	39	2		1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	35	2		6	毎回違った活動を取り組んでいるようで、子どもも飽きずに通っています。活動を通して様々なことができるようになっています。	多様な活動内容を計画的に取り入れ、子どもが意欲的に取り組めるよう工夫を続ける。季節や発達段階に応じたプログラムを展開し、楽しみながら多様な経験が積めるよう支援する。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	10	4	9	19	特に交流はなくて大丈夫です。	家庭の希望を尊重しつつ、地域との交流機会については本児の状況に応じて検討する。必要に応じて、園や関係機関と連携し社会参加の機会を広げる。
保護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	39	1		1		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	38	2		2		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	4	7	14		家族支援プログラムの動画の存在を周知し、家庭と連携した支援を行えるよう努める。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	38	2	1	1	子どもの困りごとをヒアリングしてくれているので、良く把握してくれている。	保護者との対話を通して家庭での様子を把握し、支援に反映する。日々のやり取りを丁寧に行い、子どもの困りごとを共有しながら一貫した支援を継続する。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	33	5	1	2	聞けば教えてくれる。	保護者からの相談や質問に随時応じるとともに、必要に応じて面談や助言の機会を設け、安心して相談できる体制を維持する。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	37	3	1	1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	4	13	22		オンライン形式での保護者交流や情報共有を検討する。家庭でのきょうだい参加が可能な企画も取り入れ、無理のない形で交流機会を設ける。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	31	5	2	5	・保育園での様子を視察してくれたり、いろいろとフォローしてくれていると感じます。 ・申し入れたことがないのでわからない。	保育園や関係機関との連携を継続し、家庭との情報共有を密に行う。相談や申し入れの際には速やかに対応できるよう体制を整え、安心して意見を伝えられる環境を維持する。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	40	2	1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	28	3	3	7		ブログ、Instagramの存在を再周知。LINEの登録も再確認し、情報を受け取れないご家庭がないよう努める。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	34	1		6		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	21	4	1	16	説明いただいたかと思うが覚えておらず、わからないとさせていただきます。	お便り等で掲示場所や内容を改めて周知し、有事の際に適切な対応がとれるよう備える。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	2	1	21	非常時の対応方針について、改めて伺えますと幸いです。	お便り等で掲示場所や内容を改めて周知し、有事の際に適切な対応がとれるよう備える。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	2		12	非常時の対応方針について、改めて伺えますと幸いです。	お便り等で掲示場所や内容を改めて周知し、有事の際に適切な対応がとれるよう備える。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31			11		事故発生時の連絡体制や対応手順について、保護者への周知を徹底する。お便りや面談時に説明の機会を設け、安心して通所いただけるよう情報共有を強化する。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	38	3			・教室の玄関につくと早く中に入りたい！とやる気があります。 ・まだ通所に慣れておらず、行き渋りがあるのでどちらともいえない。	登所時の意欲を尊重し、安心して入室できるような環境を整える。行き渋りが見られる際には無理に促さず、興味のある活動を取り入れながら通所への安定を図る。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	35	5	1	1	・毎週通うのを楽しみにしております。 ・子どもが興味を持つようなオリジナルの課題を作成してくださり、もともと行くのが楽しみだったわが子がかもつと行くのが楽しんでいます。	興味や得意を生かした課題づくりを継続し、通所への意欲をさらに高めていく。職員間で情報を共有し、毎回の活動に楽しみや達成感を感じられるよう支援を行う。
	29	事業所の支援に満足していますか。	39	3			・子どもに合わせ色々に対応いただき満足しています。 ・丁寧に対応いただき親子共に満足しています。	特性やご家庭の状況に応じた柔軟な支援を継続し、安心して通える環境を維持する。保護者との連携を密にし、満足度の高い支援体制を保つ。

## 事業所における自己評価結果

公表						
事業所名		てらびあぽけっと清澄白河教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	ねらいや人数に合わせて臨機応変に部屋を使い分けている。	自由遊びの際に体を動かしたい児が集まった際は狭く感じる。遊ぶスペースを分ける等工夫する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		第三者評価未実施のため
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		本部のオンライン研修や、職員の専門性を生かした内部研修を実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	前の担当の内容を引継ぎ、継続した支援が実施できるよう工夫している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1		児発管の参加が多いので、他職員にも参加の機会を均等に持てるようにする。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	就学先への情報提供や連携を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	3	ご家庭から希望があれば園訪問を実施し、家庭と園と療育での連携に努めている。	
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1	区や他機関からの研修の通知を玄関前に掲載したり、SNSで告知を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしている	2	6		オンラインや紙面上でのやりとりの機会を作ることができるよう努める。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		Instagramやブログ、LINEでの一斉配信を週2回以上行い、精力的に発信をしている。	
非常時等の対応	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5		空き枠で子育て相談会や季節の行事イベントの開催を検討する。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		毎回終礼で確認をし、対応や環境設定について検討の機会を設けている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8			

## 事業所における自己評価総括表

公表				
○事業所名	てらびあぽけっと清澄白河教室			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数)	42
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 4日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間のコミュニケーションがよく取れており、支援観や情報が共有できている。	愚痴や陰口のない、安心して意見を出し合える雰囲気づくりを意識している。	情報共有の質をさらに高めるため、ケースごとの振り返りや意見交換の機会を定期的に設け、共通理解を深める。
2	専門性を生かした支援や業務内容に取り組むことができている。	ジョブローテーションを行い役割を明確化している。 月に一度全職員による内部研修を実施し、各自の専門性を共有している。	外部研修や他事業所との情報交換の機会を増やし、得た知識を内部研修に還元することで、組織全体の専門性向上を図る。
3			
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員配置や稼働状況により、時間的な余裕を持った支援準備や職員間の振り返りの時間が十分に確保しづらい。	利用率の稼働率が高く、職員が療育業務と事務作業を並行して行っているため、情報整理や振り返りの時間が後回しになりやすい。	短時間で効果的なミーティングや共有ツールの活用により情報伝達を効率化する。優先順位を明確にし、負担を分散できる体制づくりを進める。
2	保護者交流やきょうだい支援など、地域・家庭との関わりを深める機会が限られている。	稼働スケジュールの関係で対面での実施が難しく、職員の勤務時間内で調整がしにくい。	オンライン形式での保護者交流や情報共有を検討し、家庭でも参加しやすい形を整える。活動紹介やお便りを通じて間接的なつながりを強化する。
3			